

# 与謝野晶子訳『源氏物語』書誌集成(下)

Bibliography of Modern Japanese Translations on "Tale of Genji" by YOSANO Akiko's, the latter volume

佐藤 由佳

SATO Yuka

キーワード：『源氏物語』・現代語訳・与謝野晶子・書誌

与謝野晶子による現代語訳『源氏物語』書誌調査の一端を、「与謝野晶子訳『源氏物語』書誌集成(上)」(「愛知淑徳大学国語国文」第四三号(二〇二〇年三月発行))として公表した。本稿は、その姉妹編として、晶子の訳業を書籍の出版形態により《単行本》(前掲論考)、《叢書》、《文庫》と三分類したうちの《叢書》および《文庫》について掲げるものである。

掲出の順は、刊行年月日順としている。なお、その他の掲出方法等については、前稿の最初に記した。

## 《叢書》

『新々譯源氏物語』全六巻。日本社(日本文庫)。(新新訳)

「第一巻」(桐壺ゝ葵) 昭和二十三年一月 五日 三三〇頁

愛知淑徳大学大学院文化創造研究紀要 第七号 二〇二〇・三 五三一六八

「第二巻」(神ゝ朝顔) 昭和二十三年一月一五日 三〇一頁

「第三巻」(乙女ゝ藤のうら葉) 昭和二十三年一月二五日 五二七頁

「第四巻」(若菜上ゝ夕霧) 昭和二十四年六月一〇日 三〇九頁

「第五巻」(夕霧(二)ゝ總角) 昭和二十四年七月一日 三三〇頁

「第六巻」(早蕨ゝ夢の浮橋) 昭和二十四年一〇月一日 四一九頁

サイズ …一八・〇×一二・二cm

一頁行数…一六行 一行字数…四三字

《日本文庫 文學篇》の「20」から「25」。奥付およびカバーの書名は、『新々譯源氏物語』だが、本体は、『新新訳源氏物語』とする。

五三

「第一巻」巻頭に、与謝野晶子による「はしがき」をおく。これは、金尾文淵堂から刊行された〈新新訳〉として最初に刊行された『新新訳源氏物語』全六巻の「第六巻」巻末の「あとがき」と同じ。

カバー絵は、吉村忠夫。定価は、「第一巻」「第二巻」「第三巻」各巻一五〇円、「第四巻」一七〇円、「第五巻」一九〇円、「第六巻」二〇〇円。

『源氏物語』全四巻。三笠書房。〈新新訳〉

「第一巻」(桐壺ゝ蓬生) 昭和二十四年 六月一〇日 三一五頁

「第二巻」(關屋ゝ若菜(上)) 昭和二十四年 八月 五日 二八三頁

「第三巻」(若菜上(つづき)ゝ總角)

昭和二十四年 九月二五日 三二二頁

「第四巻」(總角(つづき)ゝ夢の浮橋)

昭和二十四年一〇月 五日 三二一頁

サイズ …一八・〇×一二・七cm

一頁行数…二二行 一行字数…五四字

《世界文學選書》の「4」から「7」。「第一巻」巻末に「解説」(池田亀鑑「源氏物語と晶子源氏」)をおく。また、「第四巻」巻末には「あとがき」に続き、池田亀鑑編「源氏物語年立源氏物語系圖」を付す。

なお、版によって、初版印刷日および初版発行日の記載が異なるものがある。

装丁は、藤岡光一。定価は、各巻二〇〇円。

『源氏物語』全二巻。河出書房。〈新新訳〉

「上」(桐壺ゝ若菜上) 昭和三〇年 九月二五日 三七七頁

「下」(若菜下ゝ夢浮橋) 昭和三〇年一〇月二五日 三七八頁

サイズ …二二・五×一五・五cm

一頁行数…二九行 一行字数…二〇字(三段組みの一段)

《日本国民文学全集》全三五巻の「第三巻」、「第四巻」。それぞれ第一回、第二回配本。

各巻頭に、カラー口絵を付す。「上」巻末には、久松潜一による「解説」をおく。「下」巻末には、与謝野晶子による「あとがき」、森林太郎・上田敏による『新訳源氏物語』初版の序、久松潜一による「源氏系図」および「源氏物語年立」、「源氏物語図録」を付す。

各巻に、主要人物を紹介した葉が添付されている。

装丁は、原弘。函入り。月報つき。定価は、各巻三四〇円。

『源氏物語』全二巻。河出書房新社。〈新新訳〉

「(上)」(桐壺ゝ若菜上) 昭和三三年 七月一〇日 三七七頁

「(下)」(若葉下)夢浮橋

昭和三三年 八月一〇日 三七八頁



サイズ …二二・五×一五・五 cm  
一頁行数…二九行 一行字数…二〇字 (三段組みの一段)

《日本国民文学全集》全一八巻の「第三巻」、「第四巻」。それぞれ第二回、第三回配本。なお、第一回配本は、土屋文明『万葉集』。

昭和三〇年刊行の《日本国民文学全集》「第三巻」、「第四巻」と内容は同じ。ただし、奥付表記は、「日本国民文学全集」だが、巻末広告には、「古典・日本国民文学全集・全18巻」とあり、函の表面下部に「古典3」および「古典4」とそれぞれ記載されている。また、付属の栞と月報も、昭和三〇年版と内容は同じ。月報に掲載された写真については、昭和三〇年版と比較して、若干不鮮明なものとなっている。

与謝野晶子訳『源氏物語』書誌集成(下) (佐藤由佳)

函入り。月報つき。装丁は、原弘。定価は、各巻三六五円。

『源氏物語』全二巻。河出書房新社。(新新訳)

「上」(桐壺)若葉(上) 昭和三五年 七月 五日 五八七頁  
「下」(若葉)下)夢浮橋 昭和三五年 八月一日 五七二頁

サイズ …一八・〇×一二・〇 cm  
一頁行数…二三行 一行字数…二五字 (二段組みの一段)

《日本文学全集》全二五巻の「1」、「2」。編集委員として、青野季吉、荒正人、川端康成、瀬沼茂樹、中島健蔵の名を挙げ。各巻頭に「源氏物語絵巻」のカラー口絵を付す。各巻末に、池田弥三郎による「注釈」をおく。さらに、「下」の巻末には、中村真一郎による「解説」をおく。この「解説」については、中村真一郎の著書に、それぞれ次のタイトルを付し所収されている。

・「解説」(中村真一郎編『文芸読本 源氏物語』昭和三七年九月一日 河出書房新社)  
・「源氏物語を巡って」(中村真一郎著『王朝文学の世界』昭和三八年二月二八日 新潮社)  
・「源氏物語を巡って」(中村真一郎著『中村真一郎評論集成 3 私の古典』昭和五九年八月一六日 岩波書店)  
装丁は、原弘。クロス装。函入り。月報つき。定価は、各巻

二九〇円。

『源氏物語』全二巻。河出書房新社。〈新新訳〉

「上」 (桐壺〜若菜 (上)) 昭和三八年 八月二〇日 五八七頁  
「下」 (若菜 (下) 〜夢浮橋) 昭和三九年 九月二三日 五七二頁

サイズ …一八・〇×一二・五cm

一頁行数…二三行 一行字数…二五字 (二段組みの一段)

《国民の文学》全一八巻の「第三巻」、「第四巻」。編集委員は、谷崎潤一郎、川端康成、中島健蔵、瀬沼茂樹、山本健吉、荒正人、中村真一郎。

各巻頭に「源氏物語絵巻」のカラー口絵を付す。各巻末に、池田弥三郎による「注釈」をおく。また、「下」の巻末には、中村真一郎による「解説」をおく。この「解説」については、前著と同様に中村のそれぞれの著書に転載されている。

〈新新訳〉として昭和一三年に刊行されて以来、「夕霧」巻については、「夕霧」「夕霧 (二)」もしくは、「夕霧 (一)」「夕霧 (二)」と二分割されていたものが、この《国民の文学》以降、「夕霧」として一つにまとめられる。

装丁は、真鍋博。函絵は、土田麦僊。クロス装。函入り。月報つき。定価は、各巻三九〇円。

『源氏物語』全二巻。河出書房新社。〈新新訳〉

「上巻」 (桐壺〜若菜 (上)) 昭和四〇年 六月 三日 五二〇頁  
「下巻」 (若菜 (下) 〜夢の浮橋) 昭和四〇年 七月 三日 五三四頁



サイズ …一九・五×一四・〇cm

一頁行数…二五行 一行字数…二七字 (二段組みの一段)

《豪華版 日本文学全集》全二九巻の「1」、「2」。「上巻」は、第一回配本。監修として、谷崎潤一郎、武者小路実篤、志賀直哉、川端康成の名を挙げる。各巻、色刷挿絵を四枚付す。色刷口絵は、「源氏物語絵巻」(徳川黎明会所蔵)。これについては、葉の「編集室だより」に「蛍光燈の無熱撮影法を発明した三上四郎氏」による「画期的な直接撮影」であることが記されている。また、「下巻」葉には、「目で見る源氏物語」として、映像化された場面が掲載されている。

「上巻」巻末には、「『新訳源氏物語』初版の序」、続いて池田弥三郎「注釈」をおく。

「下巻」巻末には、与謝野晶子「あとがき」、池田弥三郎「注釈」、久松潜一「源氏系図」および「源氏物語年立」、「図録」、池田弥三郎「解説」を付す。

装丁は、亀倉雄策。挿絵は、中沢弘光。

函入り。定価は、各巻五八〇円。それぞれの帯に期間限定の「奉仕特価」の記述がある。「上巻」については、一〇月三十一日まで、「下巻」については、八月三十一日まで、それぞれ四八〇円とある。

『源氏物語』全二巻。河出書房新社。〈新新訳〉

「上」（桐壺〜若菜（上）） 昭和四二年 一月一〇日 四一八頁

「下」（若菜（下）〜夢の浮橋）

昭和四二年 二月一八日 四一八頁



与謝野晶子訳『源氏物語』書誌集成（下）（佐藤由佳）

サイズ …二二・五×一五・五 cm  
一頁行数…二九行 一行字数…三十一字（二段組みの一段）

《カラー版日本文学全集》全三九巻・別巻二巻の「第二巻」、「第三巻」。「上」は、第一回配本。帯には「明治一〇〇年記念出版」とある。

監修は、武者小路実篤、志賀直哉、川端康成、井上靖、山本健吉。美術監修は安田靫彦、梅原龍三郎。カラー口絵には、「源氏物語絵巻 伝藤原隆能筆」が使用されている。

「上」巻末には、池田弥三郎「注釈」、「本文カラー挿画・説明」、池田弥三郎「解説」が付される。

「下」巻末には、与謝野晶子「あとがき」、池田弥三郎「注釈」、久松潜一「源氏系図」および「源氏物語年立」、「本文カラー挿画・説明」、池田弥三郎「解説」を付す。

装丁は、亀倉雄策。色刷挿絵およびカットは、新井勝利。

函入り。定価は、各巻七五〇円。ただし、「上」の帯には、「奉仕特価六九〇円」、「下」の帯には、「記念特価六九〇円」とある。

『源氏物語』全二巻。河出書房新社。〈新新訳〉

「上」（桐壺〜若菜（上）） 昭和四六年 二月 五日 四四四頁

「下」（若菜（下）〜夢の浮橋）

五七

昭和四十六年 三月一五日 四一九頁



サイズ …二二・八×一五・五cm

一頁行数…二九行 一行字数…三二字（二段組みの一段）

《日本の古典》全二五巻（別巻一卷）の「3」、「4」。「3」は、《日本の古典》シリーズの第一回配本である。「上」の帯には、「読者特典」として、「定期購読シール」が印刷され、次のような記載がある。

第一回から第八回までの定期購読シールをお送りください  
ました方には、本巻と同一装幀の『古典文学入門』を無料  
贈呈いたします。

『古典文学入門』は、古代から近世までの古典文学の作品や  
作者を取り上げた論文から成る。同書には、中村真一郎による

「源氏物語を巡って」（昭和38年2月刊『王朝文学の世界』より）が所収されている。

「責任編集」は、久松潜一、川端康成、円地文子、山本健吉、  
中村真一郎。

「上」、「下」とも巻頭に寺田透による「解説」をおく。

また、「上」巻末には、「〈作品鑑賞のための古典〉」と題し、  
久松潜一訳「『無名草子』（『源氏物語』関連部分のみ）」を付  
す。続いて久松潜一による「紫式部と『源氏物語』」と題する  
「解題」および池田弥三郎による「注釈」をおく。「下」巻末に  
は、同じく「〈作品鑑賞のための古典〉」と題する、秋山虔訳  
「『源氏物語玉の小櫛』（抄）」を付す。「下」に「解題」はなく、  
そのまま池田弥三郎の「注釈」へと続く。

挿絵は、カラー刷り。巻頭におかれている「解説」には、多  
くの写真が付され、カラーのものもみられる。奥付のシリーズ  
名は、「日本の古典」だが、巻末広告には、「カラー版 現代語  
訳 日本の古典」とある。

装丁は、亀倉雄策。「上」挿絵は、安田靉彦。「下」挿絵は、  
平山郁夫。「カット」佐多芳郎、「解説写真」榊原和夫。

クロス装。函入り。カラー刷りの月報つき。定価は、各巻  
一、二〇〇円。ただし、「上」の帯には、定価の表示のほか、  
特価九八〇円との記載がある。



『源氏物語』 全三巻。河出書房新社。〈新新訳〉

「上」	(桐壺ゝ乙女)	昭和五十一年 一月三〇日 四〇五頁
「中」	(玉鬘ゝ紅梅)	昭和五十一年 一月三〇日 三九八頁
「下」	(竹河ゝ夢の浮橋)	昭和五十一年 一月三〇日 三七〇頁



サイズ …一七・五×一二・〇cm  
一頁行数…二三行 一行字数…二五字 (二段組みの一段)

《日本古典文庫》全二〇巻の「4」、「5」、「6」。第二回として、三冊同時に配本された。各巻、カラー口絵を一枚ずつ付す。カラー口絵については、次のとおり。「上」須磨(安田靱彦)、「中」土佐光起筆・紫式部像(石山寺蔵)、「下」源氏物語絵巻・東屋(徳川黎明会蔵)。

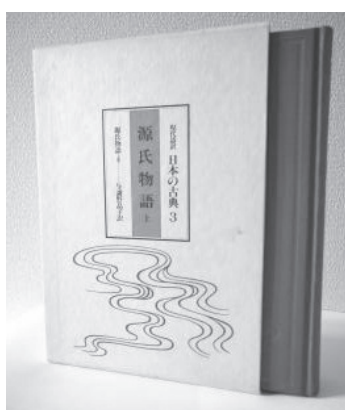
各巻末には、池田弥三郎による「注釈」をおく。さらに、

与謝野晶子訳『源氏物語』書誌集成(下)(佐藤由佳)

「上」巻末には、中村真一郎による「解説」をおく。この「解説」は、「解説」または「源氏物語を巡って」と題して前掲各書に掲載されたものと同じ。  
装画は、福田平八郎。函絵は、「山種美術館蔵」とある。函入り。定価は、各巻八八〇円。

『源氏物語』 全二巻。河出書房新社。〈新新訳〉

「上」	(桐壺ゝ若菜(上))	昭和五十四年 五月一〇日 四四四頁
「下」	(若菜(下)ゝ夢の浮橋)	昭和五十四年 五月一〇日 四一九頁



サイズ …二二・八×一二・五cm  
一頁行数…二九行 一行字数…三二字 (二段組みの一段)

《現代語訳 日本の古典》全二五卷（別巻一卷）の「3」、「4」。昭和四六年に河出書房新社から刊行された《日本の古典》全二五卷の「3」、「4」の改裝版。なお、（別巻一卷）とは、昭和四六年二月から刊行された《日本の古典》の「読者特典」として贈呈された、中村真一郎ほか編『古典文学入門』の改裝版である。

本文は、昭和四六年に刊行されたものに同じ。月報はない。装丁の違いのほか、昭和四六年版の奥付には、「訳者 与謝野晶子」とあるが、本書奥付には、「訳者 与謝野晶子 他」とある。

また、昭和四六年版の「下」月報にあった「執筆者紹介」が、本書においては、奥付の次の頁に「源氏物語 執筆者紹介」として掲載。また、昭和四六年版の奥付に記載されていた「装幀者 亀倉雄策」の名はなく、装丁については、明記されていない。

加えて、巻頭においた寺田透による「解説」の頁の紙質が変更されている。昭和四六年版はすべて同質の紙であったが、紙質の変更により、本書は写真がより鮮明になった。

クロス装。函入り。

『源氏物語』全三巻。河出書房新社。〈新新訳〉

「上」（桐壺〜乙女）

昭和六二年二月二五日 四〇五頁

「中」（玉鬘〜紅梅） 昭和六二年 一月三〇日 三九八頁  
「下」（竹河〜夢の浮橋） 昭和六二年 一月三〇日 三七〇頁



サイズ …一七・五×一・八cm  
一頁行数…二三行 一行字数…二五字（二段組みの一段）

《新装版 日本古典文庫》全二〇巻の「4」、「5」、「6」。昭和五一年一月に河出書房新社から刊行された《日本古典文庫》『源氏物語』全三巻の新装版。内容は、同じ。

カバー絵は、「上」新井勝利、「中」および「下」平山郁夫。定価は、各巻一、六〇〇円。



『新訳 源氏物語』 全三巻。勉誠出版。(新訳)

- [7] (桐壺〜夕霧) 平成一四年 一月二五日 四七一頁  
 [8] (御法〜夢浮橋) 平成一四年 一月二五日 四七七頁



サイズ …二一・五×一五・五cm  
 一頁行数…一八行 一行字数…四八字

《鉄幹 晶子 全集》全三巻・別巻二巻の「7」、「8」。本全集の編集代表は、逸見久美。編集委員は、永岡健右、市川千尋、田口佳子、今野寿美。編集協力は、深谷秀樹、鶴丸典子、北山裕子、川崎佳奈子（「8」のみ）。

「7」の「凡例」において、「本巻には、与謝野晶子の古典現代語訳『新訳源氏物語』上巻と、『新訳源氏物語』中巻とを、初版本を底本として収録した。」とある。また、「8」の「凡

与謝野晶子訳『源氏物語』書誌集成(下) (佐藤由佳)

例」において、「本巻には、与謝野晶子の古典現代語訳『新訳源氏物語』下巻の一と、『新訳源氏物語』下巻の二とを、初版本を底本として収録した。」とある。なお、「8」巻末には、市川千尋による「解題」を付す。

定価は、各巻六、〇〇〇円(税別)。

『新新訳源氏物語』 全三巻。勉誠出版。(新新訳)

- [28] (桐壺〜朝顔) 平成二二年 七月二〇日 五〇九頁  
 [29] (乙女〜夕霧(一)) 平成二二年一〇月二〇日 五四七頁  
 [30] (夕霧(二)〜夢の浮橋) 平成二二年 二月二〇日 六五四頁



サイズ …二一・五×一五・五cm  
 一頁行数…一八行 一行字数…四八字

《鉄幹 晶子 全集》全三二巻・別巻二巻の「28」、「29」、「30」。本全集の編集代表は、逸見久美。編集委員は、川崎キヌ子、市川千尋、田口佳子。編集協力は、久保田るり子、殷静如、坂谷美愛、松森早智、若松昭子。

「28」の「凡例」において、「本巻には与謝野晶子の古典現代語訳『新新訳源氏物語』一巻と二巻とを、初版本を底本として収録した。」とある。また、「29」の「凡例」において、「本巻には与謝野晶子の古典現代語訳『新新訳源氏物語』三巻と四巻とを、初版本を底本として収録した。」とある。さらに、「30」の「凡例」においては、「本巻には与謝野晶子の古典現代語訳『新新訳源氏物語』五巻と六巻とを、初版本を底本として収録した。」とある。

「28」の巻末には、『新新訳源氏物語』の各巻頭には晶子自筆の歌があるが、一・二巻にはその読みが付されていないので、以下逸見久美が解説したものを編集部が記載した。」として、「桐壺」から「朝顔」までの巻頭の晶子の和歌を列挙している。「30」巻末には、逸見久美、市川千尋両氏による「解題」をおく。

定価は、各巻六、〇〇〇円（税別）。

## 《文庫》

『源氏物語』全七巻。三笠書房（三笠文庫）。〈新新訳〉

「(一)」	(桐壺ゝ花宴)	昭和二六年一〇月一九日	二三二頁
「(二)」	(葵ゝ松風)	昭和二六年一〇月三〇日	二三八頁
「(三)」	(薄雲ゝ藤袴)	昭和二六年一月一五日	二三八頁
「(四)」	(眞木柱ゝ若菜(下))	昭和二六年二月一日	二二九頁
「(五)」	(柏木ゝ橋姫)	昭和二六年二月一五日	二三八頁
「(六)」	(椎が本ゝ東屋)	昭和二七年一月一〇日	二五〇頁
「(七)」	(浮舟ゝ夢の浮橋)	昭和二七年一月一五日	二三三頁



サイズ …一五・〇×一〇・五cm  
一頁行数…一九行 一行字数…四三字

三笠書房による文庫版。奥付書名は『源氏物語』だが、表紙書名は、『全譯 源氏物語』。各巻に吉村公三郎監督「源氏物語」(大映製作)の場面写真(モノクロ)が二枚ずつ付されている。「(一)」の巻末には、池田亀鑑による「源氏物語と晶子源氏」と題する「解説」を付す。「(七)」の巻末には、「あとがき」に続いて、池田亀鑑編「源氏物語年立 源氏物語系圖」を付す。定価は、各巻八〇円。

なお、本書については版を重ねているが、それぞれの版によって、「初刷発行日」が異なるものがある。本稿書誌は、「(一)」第三刷、「(二)」第四刷に記載する第一刷の刊行年月日によった。それ以外の「(三)」から「(七)」については、すべて第一刷による。

# 『源氏物語』 全九巻。角川書店(角川文庫)。〈新新訳〉

「第一巻」	(桐壺〜末摘花)	昭和二十九年一〇月一〇日	二二四頁
「第二巻」	(紅葉賀〜明石)	昭和二十九年一〇月二五日	二二二頁
「第三巻」	(滯標〜乙女)	昭和二十九年一〇月二五日	一九六頁
「第四巻」	(玉鬘〜眞木柱)	昭和三〇年 五月三〇日	二二〇頁
「第五巻」	(梅が枝〜若菜(下))	昭和三〇年 五月三〇日	二一九頁
「第六巻」	(柏木〜紅梅)	昭和三〇年 六月三〇日	二一八頁

与謝野晶子訳『源氏物語』書誌集成(下)(佐藤由佳)

「第七巻」	(竹河〜早蕨)	昭和三〇年 八月 五日	二二四頁
「第八巻」	(宿り木〜浮舟)	昭和三〇年 八月一〇日	二二三頁
「第九巻」	(蜻蛉〜夢の浮橋)	昭和三〇年 八月二〇日	一九三頁



サイズ …一五・〇×一〇・五cm  
一頁行数…一八行 一行字数…四三字

角川書店による最初の『新新譯源氏物語』の文庫版。奥付書名は、『源氏物語』だが、表紙書名は、『全譯 源氏物語』。「第一巻」巻末に「池田亀鑑」による「源氏物語と晶子源氏」を付す。「第三巻」巻末に「與謝野晶子」の略歴をおく。挿絵は、江崎孝坪。

各巻、版を重ねているが、版によって裏表紙の図柄が二種類確認できる。初版もしくは、刊行年月日が初版に近いものは、表紙デザインと同じ横のライン入りで、中央に角川書店のロゴマークである鳳凰のデザイン。もう一種類は、無地で中央に紫

陽花を配する。

定価は、「第一巻」(一二版) 八〇円、「第二巻」(一五版) 九〇円、「第三巻」(一二版) 九〇円、「第四巻」九〇円(一一版)、「第五巻」(初版) 七〇円、「第六巻」(再版) 七〇円、「第七巻」(二〇版) 九〇円、「第八巻」(一二版) 九〇円、「第九巻」(七版) 九〇円。

『全訳 源氏物語』 全三巻。角川書店(角川文庫)。(新新訳)

「上巻」(桐壺〜乙女) 昭和四六年 八月一〇日 六四八頁

「中巻」(玉鬘〜雲隠れ) 昭和四六年十一月三〇日 六三六頁

「下巻」(匂宮〜夢の浮橋) 昭和四七年 二月二五日 六七三頁



サイズ …一五・〇×一〇・五cm  
一頁行数…一八行 一行字数…四三字

昭和二九年一〇月から三〇年八月にかけて角川書店(角川文庫)から刊行された文庫本『全訳 源氏物語』全九巻を合本・改版したもの。

定価は、「上巻」(二三版)、「中巻」(一九版)、「下巻」(一九

版)それぞれ五八〇円。

のちに、初版刊行年月日を同一にして、カバーが異なるものが刊行される。カバーについては、当初のものを含め四種類確認できる。

### 『与謝野晶子の源氏物語』全三巻。

角川学芸出版(角川ソフィア文庫)。(新訳)

「上 光源氏の栄華」(桐壺／行幸)

平成二〇年 四月二五日 四六二頁

「中 六条院の四季」(藤袴／総角)

平成二〇年 四月二五日 四七九頁

「下 宇治の姫君たち」(早蕨／夢の浮橋)

平成二〇年 四月二五日 四三一頁



与謝野晶子訳『源氏物語』書誌集成(下)(佐藤由佳)

サイズ…一四・八×一〇・五cm

一頁行数…一六行 一行字数…三七字

平成一三年一月に角川書店から刊行された『与謝野晶子の新訳源氏物語』全三巻の文庫版。ただし、平成一三年一月に刊行された単行本になかった挿絵が、本書には掲出されている。

挿絵については、各巻「目次」の最後に「挿画／梶田半古画、縮刷合本『新訳源氏物語』(鶴見大学図書館蔵)より。」と記す。これは、大正一五年に金尾文淵堂から合本発行された全二巻本を指すと思われる。

「下 宇治の姫君たち」の本文に続いて、単行本同様「新訳源氏物語の後に」をおく。巻末には、神野藤昭夫による「解説」(九頁)を付すが、平成一三年一月に刊行された単行本の「解説―『新訳源氏物語』と幻の『源氏物語講義』」(四一頁)とは異なる。

カバーデザインは、谷口広樹。定価は、「上」(三版)、「下」(再版) 各巻七八一円(税別)、「中」(三版) 八一九円(税別)。

### 『全訳 源氏物語 新装版』全五巻。

角川書店(角川文庫)。(新新訳)

「一」(桐壺／花散里)

平成二〇年 四月二五日 四六二頁



〔二〕	（須磨）胡蝶	平成二〇年	四月二五日	四五七頁
〔三〕	（蛭）若菜下	平成二〇年	四月二五日	四六二頁
〔四〕	（柏木）総角	平成二〇年	五月二五日	五三七頁
〔五〕	（早蕨）夢の浮橋	平成二〇年	五月二五日	五三六頁



サイズ … 一四、八×一〇、五 cm  
 一頁行数…二七行 一行字数…三七字

各巻頭に、「角川文庫版『全訳 源氏物語』（原題『新新訳源氏物語』）は、昭和二九年一〇月から三〇年八月にかけて全九冊で刊行され、次いで昭和四六年八月から昭和四七年二月にかけて全三冊に合本・改刷されました。本書は、再び改版の上、全五冊に改めたものです。」とある。挿絵は、江崎孝坪。各巻末に「解説」を付す。それぞれの「解説」著者は、次のとおり。

- 〔一〕 逸見久美
- 〔二〕 酒井順子
- 〔三〕 森茉莉
- 〔四〕 俵万智
- 〔五〕 池田亀鑑

〔五〕には、「解説」のほか池田亀鑑編集による「源氏物語年立・源氏物語系図」を付す。

カバーイラストは、水口理恵子。カバーデザインは、鈴木久美（角川書店装丁室）。定価は、「一」、「二」、「三」各巻七〇五円（税別）。「四」、「五」各巻七四三円（税別）。

なお、初版刊行年月日を同一にして、カバーの異なるもの（『撮影／江森康之・2011「源氏物語 千年の謎」製作委員会・カバーデザイン／ウルトラグラフィックス・西村弘美（角川書店装丁室）」も刊行されている。



【参考文献】

- ・藤田徳太郎『古書研究叢書 古刊源氏物語書目』（昭和九年四月二十八日 駿南社）
- ・武笠正雄『源氏物語書史』（昭和九年七月一日 平原社）
- ・入江春行『与謝野晶子書誌』（昭和三十一年一月一日 創元社）
- ・中村真一郎編『文芸読本 源氏物語』（昭和三十七年九月一日 河出書房新社）
- ・中村真一郎『王朝文学の世界』（昭和三十八年二月二八日 新潮社）
- ・逸見久美『評伝・與謝野鐵幹晶子』（昭和五〇年四月一〇日 八木書店）
- ・中村真一郎ほか編『現代語訳 日本の古典別巻 古典文学入門』（昭和五四年五月一〇日 河出書房新社）
- ・中村真一郎『中村真一郎評論集成3 私の古典』（昭和五九年八月一六日 岩波書店）
- ・田村早智『与謝野晶子と源氏物語』書誌調査」（『私立大学図書館協會会報』（一〇〇号）（平成五年六月二〇日 私立大学図書館協會）
- ・田村早智『与謝野晶子』書誌（稿）」（『鶴見大学紀要』（第三三二号）（平成七年三月一五日 鶴見大学）
- ・片桐洋一『源氏物語以前』（平成一三年一〇月三〇日 笠間書院）
- ・石塚純一『金尾文淵堂をめぐる人びと』（平成一七年二月二八日 新宿書房）

与謝野晶子『源氏物語』書誌集成（下）（佐藤由佳）

- ・逸見久美『新版 評伝 与謝野寛晶子 明治篇』（平成一九年八月三〇日 八木書店）
- ・田坂憲二『文学全集の黄金時代 河出書房の1960年代』（平成一九年十一月九日 和泉書院）
- ・神野藤昭夫『与謝野晶子の『新新訳源氏物語』の執筆・成立の経緯』（河添房江編『講座源氏物語研究 第十二巻 源氏物語の現代語訳と翻訳』（平成二〇年六月二〇日 おうふう）
- ・河添房江『現代語訳と近代文学—与謝野晶子と谷崎潤一郎の場合—』（河添房江編『講座源氏物語研究 第十二巻 源氏物語の現代語訳と翻訳』（平成二〇年六月二〇日 おうふう）
- ・立石和弘『谷崎潤一郎訳『源氏物語』の出版戦略』（河添房江編『講座源氏物語研究 第十二巻 源氏物語の現代語訳と翻訳』（平成二〇年六月二〇日 おうふう）
- ・吉岡幸雄『源氏物語』の色辞典』（平成二〇年十一月一日 紫紅社）
- ・逸見久美『新版 評伝 与謝野寛晶子 大正篇』（平成二一年八月三〇日 八木書店）
- ・逸見久美『新版 評伝 与謝野寛晶子 昭和篇』（平成二四年八月二五日 八木書店）
- ・堺市博物館編『企画展「与謝野晶子—その限りなき挑戦の生涯—」』図録（平成二七年一〇月三〇日 堺市博物館）
- ・立石和弘『源氏文化年譜—明治から二〇二二年まで—』（助川幸逸郎ほか編『新時代への源氏学10 メディア・文化の階級闘争』（平

成二九年四月五日 竹林社)

- ・田坂憲二「戦後の与謝野源氏と谷崎源氏——出版文化史の観点から——」『文学・語学』(第二一九号) (平成二九年六月二五日 全国大学国語国文学会)

- ・神奈川文学振興会編『生誕140年与謝野晶子展 こよひ逢ふ人みなうつくしき』図録 (平成三〇年三月一七日 神奈川近代文学館・神奈川文学振興会)

- ・田坂憲二『日本文学全集の時代——戦後出版史を読む』(平成三〇年三月三〇日 慶應義塾大学出版会)

- ・文京区立森鷗外記念館編『文京区立森鷗外記念館 平成三十(二〇一九)年特別展 一葉、晶子、らいてう——鷗外と女性文学者たち』図録 (平成三一年四月六日 文京区立森鷗外記念館)

- ・国立国会図書館デジタルコレクション (<http://dl.ndl.go.jp/>)
- ・国文学研究資料館 近代書誌・近代画像データベース (<http://www.nijl.ac.jp/search-find/>)
- ・伊藤鉄也 (研究代表者)『海外における源氏物語を中心とした平安文学及び各国語翻訳に関する総合的調査研究』(<http://genjito.org/>)
- ・伊藤鉄也『源氏物語電子資料館』([genjito.sakurane.jp/t\\_ito/](http://genjito.sakurane.jp/t_ito/))
- ・国立情報学研究所 Webcat Plus ([webcatplus.nii.ac.jp/](http://webcatplus.nii.ac.jp/))